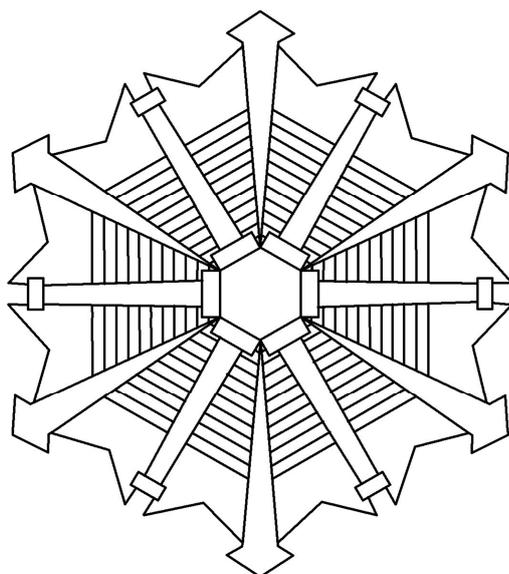


消防現況

令和3年版



久万高原町消防本部

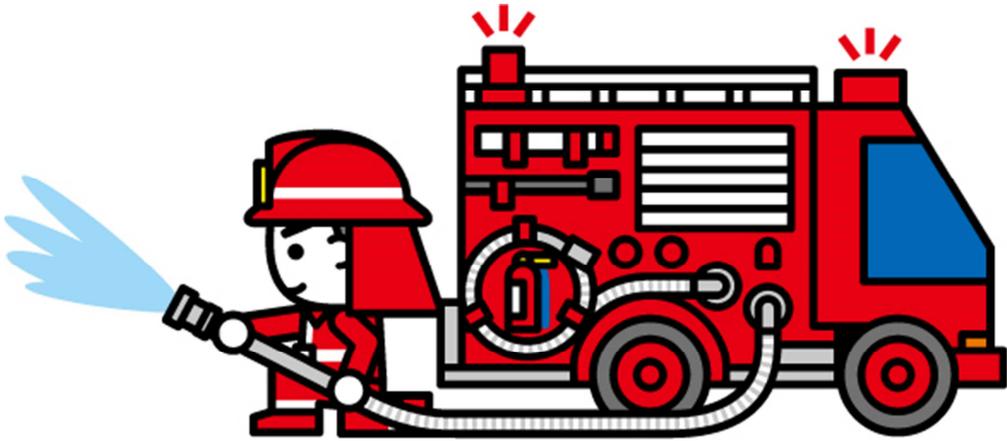


= 目 次 =

◇ 火災編	1
◇ 救急編	7
◇ 救助編	23
◇ 予防編	27



火災編



おうち時間 家族で点検 火の始末

久万高原町内の火災の実態

1. 火災の状況

(1) 地区別火災発生状況

管内における令和3年の火災発生件数は、前年と同じく4件、面河及び柳谷地区は、火災発生件数0件であった。

また、令和3年中の出火率（人口1万人当たりの出火件数）は、5.2件/万人となっており、全国平均2.7件/万人、愛媛県2.7件/万人（令和3年版「消防白書」）の出火率を上回っている。

第1表 地区別火災発生状況

区分	単位	久万高原町								合計	
		久万地区		面河地区		美川地区		柳谷地区		令和2年	令和3年
		令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年		
出火件数	件	3	2			1	2			4	4
建物			1			1				1	1
林野		1								1	
車両			1				2				3
その他		2								2	
損害額	千円	252	2,063			10,134	700			10,386	2,763
建物			1,759			9,530				9,530	1,759
林野		252								252	
車両			304			604	500			604	804
その他							200				200
焼損棟数	棟		1			5				5	1
り災世帯数	世帯		1			1				1	1
り災人員	人		1			1				1	1
死者	人										
負傷者			1			1				1	1
出火率	%									5.0	5.2

(2) 四季別の火災発生状況

第2表 四季別火災発生件数及び損害額

年 別 季 別	令和2年			令和3年		
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)
春季(3月～5月)	2	50.0	10,134			
夏季(6月～8月)	1	25.0	252	1	25.0	1,759
秋季(9月～11月)				1	25.0	304
冬季(12月～2月)	1	25.0		2	50.0	700
合 計	4	100.0	10,386	4	100.0	2,763

(3) 建物火災の状況

第3表 建物火災の状況

月 日	地 区	出火元の用途	焼損棟数	焼損程度	焼損床面積	焼損表面積
8月 25日	久万	旅館	1棟	部分焼	44.52 m ²	0 m ²

(4) 覚知方法

第4表 覚知方法別件数

覚知方法	火災報知専用電話 (固定電話)	火災報知専用電話 (携帯電話)	加入電話	トンネルモニター盤	合計
件数(件)	1	2		1	4

(5) 時間帯別の火災発生状況

第 5 表 時間帯別出火件数

時間帯	4時～10時	10時～16時	16時～22時	22時～4時	合計
出火件数(件)	2	2			4

2. 火災による死傷者の状況

令和 3 年中は建物火災において負傷者が 1 名発生した。死者については平成 29 年 5 月から発生していない。

3. 初期消火

令和 3 年中に発生した火災 (4 件) のすべてにおいて初期消火が実施されている。初期消火方法については、「水バケツ」、「濡れ布巾」、「粉末消火器」、「40m m 消火栓」となっている。なお、4 件中 2 件の火災において、初期消火を効果的に行えている。

4. 出火原因

第 6 表 火災別発火源・経過・着火物

火災種別	月日	発火源	経過	着火物
車両	2 月 18 日	配線	スパーク	電気配線類
建物	8 月 25 日	固定ガス設備	放置する・忘れる	動植物油
車両	11 月 15 日	不明	不明	紙製品
車両	12 月 14 日	ブレーキライニング	摩擦により発熱する	タイヤ

令和3年 火災一覽表

火災番号	出火月日	火災種別	出火場所	出火時刻	覚知時刻	鎮火時刻	天候	風速 m/秒	湿度 %	火元用途	構造燃焼物	全焼 半焼 部分焼 ぼや	り災 世帯 人員	死者 負傷者	焼損面積 床面積 (㎡) 林野 表面積 (㎡) (a)	損害額 (千円)	出火原因
1	2/18	車両	美川地区	6:15	6:27	6:57	曇り	1.3 m/秒	66.8 %	建設機械						200	配線の経年劣化により絶縁性が低下、微風な電流によりスパークが発生、配線被覆が焼け、エンジンルーム内に燃え広がり火災となったもの。
2	8/25	建物	久万地区	14:10	14:13	14:55	晴れ	1.2 m/秒	51.5 %	旅館		1	1	1	44.52	1,759	業務用コンロに天ぷら鍋を強火でかけたまま放置し、天ぷら油が加熱され出火したもの。
3	11/15	車両	久万地区	11:30	11:32	11:38	晴れ	2.5 m/秒	56.9 %	貨物						304	何らかの発火源が、走行中の車両右面の荷台前方部に積載していた段ボールや、荷台シートに着火し延焼したものの、出火原因は不明。
4	12/14	車両	美川地区	9:30	9:38	10:07	晴れ	0.4 m/秒	85.7 %	貨物						500	制動装置が何かの原因で作動不良となり、ブレーキの引き溜りを起こし走行したため、ブレーキドラム内面が過熱され、ホイール温度が上昇しタイヤが高温になり、パースト発火したもの。
合計															44.52	2,763	

※焼損程度解説

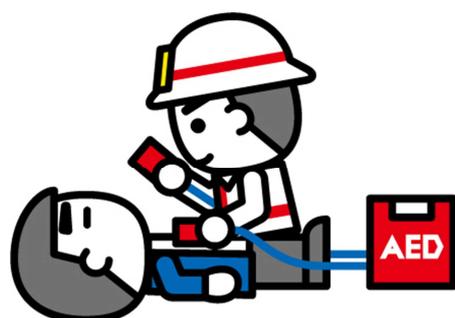
- 全焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70%以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。
- 半焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20%以上のもので全焼に該当しないものをいう。
- 部分焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20%未満のものでぼやに該当しないものをいう。
- ぼや
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10%未満であり焼損床面積が1㎡未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10%未満であり焼損表面積が1㎡未満のもの又は収容物のみ焼損したものをいう。

地区別火災発生一覧表

(平成17年～令和3年の総数)

区分 地区	出火件数				焼損面積			焼損 棟数	り災		死傷者		損害額 千円
	統計	建物	林野	他	床面積(m ²)	表面積(m ²)	林野(a)		世帯	人員	死者	傷者	
久万地区	57	30	12	15	1,537	194	202	36	15	26	0	2	44,072
東明神	5	2	-	3	50	-	13	2	-	-	-	-	954
西明神	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入野	6	4	-	2	244	-	8	3	3	3	-	1	4,661
久万	7	7	-	-	243	7	-	8	8	13	-	-	5,761
野尻	7	4	-	3	1	101	-	4	-	-	-	-	3,418
菅生	7	3	2	2	165	34	39	5	1	3	-	-	10,089
上畑野川	4	1	3	-	112	-	12	1	-	-	-	-	1,382
下畑野川	3	-	1	2	-	-	42	-	-	-	-	-	595
直瀬	8	3	3	2	192	10	14	4	-	-	-	1	884
父野川	1	-	1	-	-	-	68	-	-	-	-	-	252
露峰	4	2	1	1	164	-	-	2	1	4	-	-	7,127
二名	5	4	1	-	366	42	6	7	2	3	-	-	8,949
面河地区	7	4	2	1	785	128	248	17	7	12	1	1	14,162
相の木	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	803
笠方	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
前組	2	1	1	-	294	-	247	5	1	3	1	-	3,583
渋草・大成	3	3	-	-	491	128	-	12	6	9	-	1	9,775
中組・本組	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美川地区	26	19	3	4	1,967	97	194	41	14	30	1	1	48,683
有枝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大川	3	2	-	1	145	32	-	3	1	3	-	-	2,491
上黒岩	4	2	1	1	4	-	-	2	-	-	-	-	639
中黒岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沢渡	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1,822
日野浦	6	5	1	-	791	11	8	14	4	6	1	1	19,414
仕出	1	1	-	-	30	17	-	3	-	-	-	-	652
七鳥	5	4	-	1	228	23	-	5	3	9	-	-	5,542
東川	4	4	-	-	510	14	-	10	5	10	-	-	13,151
黒藤川	2	1	1	-	259	-	186	4	1	2	-	-	4,972
柳谷地区	11	10	1	0	1,290	100	10	28	8	13	0	3	26,366
柳井川	5	4	1	-	387	59	4	9	3	5	-	3	6,291
西谷	4	4	-	-	783	41	6	14	4	6	-	-	12,845
中津	2	2	-	-	120	-	-	5	1	2	-	-	7,230
久万高原町	101	63	18	20	5,579	519	654	122	44	81	2	7	133,283

救 急 編



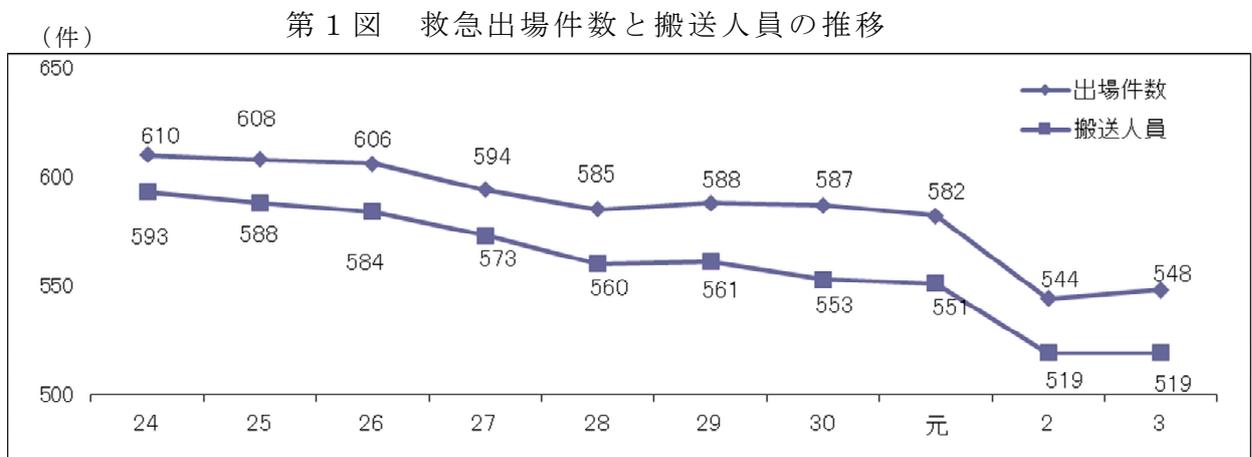
ひとりひとりが 救命のワンピース

1 救急業務の実施状況

1. 救急出場件数および搬送人員…町民 15 人に 1 人を搬送

令和 3 年の救急出場件数は 548 件（対前年比 4 件（0.7%）増）、搬送人員は 519 人（対前年比増減なし）。1 日平均出場件数は 1.50 件（前年 1.49 件）となっており、1 年間に町民（令和 3 年 4 月 1 日現在の人口 7,830 人）15 人（前年 15 人）に 1 人が救急搬送されたこととなる。

（第 1 図、第 1 表参照）



※過去 10 年間の久万高原町の統計

第 1 表 年別救急活動の比較

年	救急出場件数		搬 送 人 員	
	件数	対前年増減率	人員	対前年増減率
24	610	▲2.4	593	▲1.5
25	608	▲0.3	588	▲0.9
26	606	▲0.2	584	▲0.7
27	594	▲2.1	573	▲1.9
28	585	▲1.5	560	▲2.3
29	588	0.5	561	0.2
30	587	▲0.2	553	▲1.4
元	582	▲0.9	551	▲0.4
2	544	▲6.5	519	▲5.8
3	548	0.7	519	0
累計	5,852	—	5,601	—

2. 事故種別救急出場件数および搬送人員

出場件数 548 件を事故種別で見ると、急病 251 件 (45.8%)、次いで転院搬送 149 件 (27.2%)、一般負傷 101 件 (18.4%) となっており、上位 3 種別で全体の 91.4% を占めている。(第 2 表参照)

また、搬送人員 519 人を年齢区分別で見ると、高齢者が 395 人で全体の 76.1% を占めている。(第 3 表参照)

第 2 表 事故種別救急出場件数および搬送人員

事故種別	令和3年中		令和2年中		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	251	45.8%	252	46.3%	▲ 1	▲0.4%
	238	45.8%	236	45.5%	2	0.4%
一般負傷	101	18.4%	82	15.1%	19	23.2%
	91	17.5%	78	15.0%	13	16.7%
交通事故	27	4.9%	35	6.4%	▲ 8	▲22.9%
	27	5.2%	33	6.4%	▲ 6	▲18.2%
労働災害	9	1.7%	5	0.9%	4	80%
	7	1.3%	5	1.0%	2	40%
自損行為	4	0.7%	5	0.9%	▲ 1	▲20.0%
	1	0.2%	2	0.4%	▲ 1	▲50.0%
火災	1	0.2%	1	0.2%	0	0.0%
	1	0.2%	1	0.2%	0	0.0%
加害						
運動競技	3	0.5%	1	0.2%	2	200.0%
	3	0.6%	1	0.2%	2	200.0%
水難	1	0.2%			1	100.0%
	1	0.2%		0.0%	1	100.0%
自然災害						
転院	149	27.2%	161	29.6%	▲ 12	-7.5%
	149	28.7%	161	31.0%	▲ 12	-7.5%
その他	2	0.4%	2	0.4%	0	0.0%
	1	0.3%	2	0.4%	▲ 1	-50.0%
合計	548	100.0%	544	100.0%	4	0.7%
	519	100.0%	519	100.0%	0	0.0%

第3表 年齢区分別事故種別搬送人員

(519人)

年齢区分 事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病		3 1.3%		44 18.6%	191 80.1%	238 45.9%
一般負傷		1 1.1%	3 3.2%	18 19.4%	69 76.3%	91 17.5%
交通事故				21 78.6%	6 21.4%	27 5.2%
転院				22 14.8%	127 85.2%	149 28.7%
その他			3 21.4%	9 64.3%	2 14.3%	14 2.7%
計		4 0.8%	6 1.1%	114 22.0%	395 76.1%	519 100.0%

第4表 月別・事故種別救急出場件数

(548件)

月 事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	26	11	26	15	19	17	28	19	23	29	23	15	251
一般	9	14	4	5	11	6	6	12	8	10	8	8	101
交通	4	1	3	1	3	2	2	3	2	2	4	0	27
その他	1	3	2	0	1	3	0	2	1	5	1	1	20
転院	14	10	11	10	9	11	15	13	13	19	8	16	149
計	54	39	46	31	43	39	51	49	47	65	44	40	548

第5表 曜日別救急出場件数

(548件)

曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
出場件数	82	90	80	73	78	72	73	548

第 6 表 時間帯別・事故種別出場件数

(548 件)

時間 事故種別	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他		計
											転院	その他	
0～2							3			6	4		13
2～4					1		1			7			9
4～6							3			5	1		9
6～8				3			4		1	24	2		34
8～10				2	1		15			39	24	1	82
10～12				5	2	1	13		1	24	30		76
12～14				8	1		16		1	37	25		88
14～16	1		1	5	4	2	24			29	24	1	91
16～18				3			12		1	22	24		62
18～20				1			6			20	5		32
20～22										19	5		24
22～24							4			19	5		28
計	1	0	1	27	9	3	101	0	4	251	149	2	548

第 7 表 住居区分別・事故種別搬送人員

(519 人)

住居区分 事故種別	急病	一般負傷	交通事故	転院	その他	計
町内居住者	221	67	5	136	5	434
	92.9%	73.6%	18.5%	91.3%	35.7%	83.6%
町外居住者	17	24	22	13	9	85
	7.1%	26.4%	81.5%	8.7%	64.3%	16.4%
計	238	91	27	149	14	519
	45.9%	17.5%	5.2%	28.7%	2.7%	100.0%

第 8 表 発生場所別・事故種別搬送人員

(519 人)

発生場所 事故種別	急病	一般負傷	交通事故	その他	計
住 宅	180	46	1	1	228
	75.6%	50.5%	3.7%	0.6%	48.5%
公衆出入場所	32	15		6	53
	13.4%	16.5%		3.7%	8.7%
仕 事 場	6		1	2	9
	2.5%		3.7%	1.2%	1.6%
道 路	12	12	25		49
	5.0%	13.2%	92.6%		7.8%
そ の 他	8	18		5	31
	3.4%	19.8%		3.1%	7.4%
病院（転院）				149	149
				91.4%	26.0%
計	238	91	27	163	519
	45.3%	17.9%	5.4%	31.4%	100.0%

3. 医療機関別搬送人員の状況

救急搬送人員 519 人中、救急告示医療機関への搬送は 457 人（88.1%）、救急告示医療機関以外への搬送は 62 人（11.9%）となっている。

（第 9 表、第 10 表参照）

第 9 表 開設区分・告示区分別搬送人員

（519 人）

開設区分 告示区分	医 療 機 関						その他の場所		計
	国 立	公 立	公 的	私的病院	私的診療所	計	ドクターヘリ 消防中継 防災ヘリ中継	警察等	
救急告示	8	273	73	103		457			457
	(8)	(36)	(73)	(84)		(201)			(201)
非告示	0	16		34		50	12		62
	0	(16)		(10)		(26)			(26)
計	8	289	73	137	0	507	12		519
	(8)	(52)	(73)	(94)	0	(227)			(227)

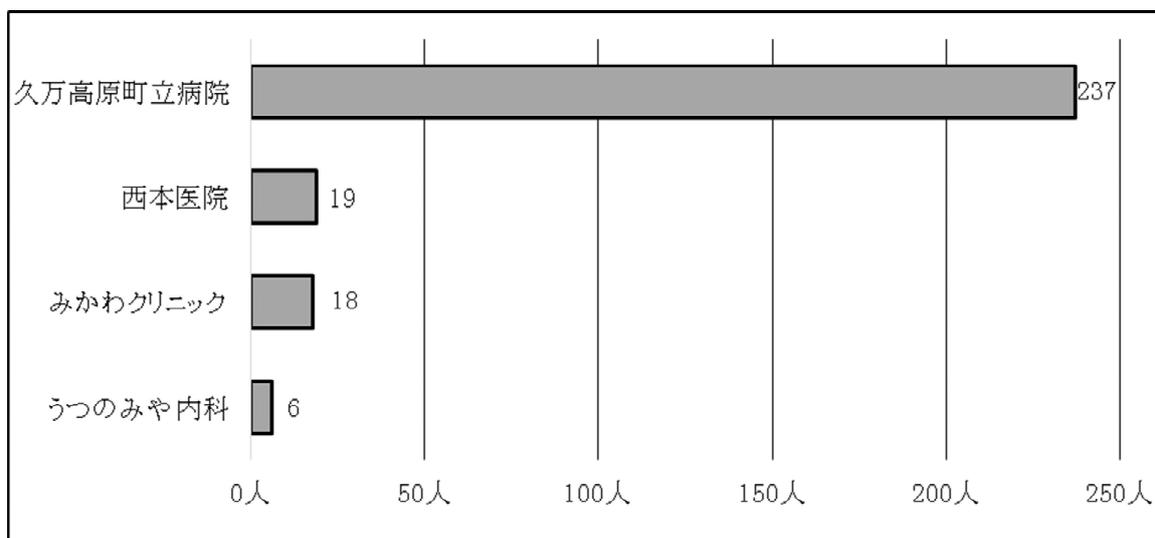
注 1. () は管外の医療機関に搬送された人員である

管内医療機関に搬送された 280 人（53.9%）について、医療機関別の状況は、久万高原町立病院 237 人（84.7%）、西本医院 19 人（6.8%）、みかわクリニック 18 人（6.4%）、うつのみや内科 6 人（2.1%）となっている。管外医療機関に搬送された 239 人（46.1%）のうち、転院搬送人員は 144 人で管外搬送人員の約 60%を占めている。

（第 2 図、第 10 表参照）

第 2 図 管内医療機関別収容人員

（280 人）



第 10 表 医療機関別搬送人員一覧表

(519 人)

管内医療機関	医療機関名		開設	人員	内転院	
	告示	久万高原町立病院		公立	237	4
社団マリナ会西本医院		私的	19	1		
非告示	みかわクリニック		私的	18		
	うつのみや内科		私的	6		
合計				280	5	
管外医療機関	救急告示	国立病院機構愛媛医療センター		国立	8	3
		愛媛県立中央病院		公立	36	32
		松山赤十字病院		公的	50	33
		済生会松山病院		公的	23	13
		松山市民病院		私的	19	12
		南松山病院		私的	17	8
		奥島病院		私的	16	4
		野本記念病院		私的	10	6
		平成脳神経外科病院		私的	8	2
		愛媛生協病院		私的	5	3
		梶浦病院		私的	5	2
		渡辺病院		私的	2	1
		笠置記念病院		私的	1	
	松山城東病院		私的	1		
	合計				201	119
非告示	救命救急センター		公立	16	15	
	その他県内		私的	10	6	
合計				26	21	
特殊	ドクターヘリ(県外ドクターヘリ含む)			9	3	
	他消防機関(消防防災ヘリ)へ中継			3	1	
	久万高原警察署・その他			0		
総計				519	149	

4. 傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度を重症度順に見ると、死亡 19 人（3.7%）、重症 103 人（19.8%）、中等症 267 人（51.4%）、軽症 128 人（24.7%）となっている。

また、年齢区分別に傷病程度を見ると、重症以上は成人 17.5%（死亡 1.8%、重症 15.8%）高齢者 25.6%（死亡 4.3%・重症 21.3%）である。

（第 11 表、第 12 表参照）

第 11 表 事故種別傷病程度 (519 人)

傷病程度 事故種別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	15 6.3%	34 14.3%	123 51.7%	65 27.3%	1 0.4%	(519 人) 45.9%
交通事故	1 3.7%	3 11.1%	9 33.3%	14 51.9%	0.0%	27 5.2%
一般負傷		23 25.3%	38 41.7%	30 33.0%		91 17.5%
その他	3 1.8%	43 26.4%	97 59.5%	19 11.7%	1 0.6%	163 31.4%
計	19 3.7%	103 19.8%	267 51.4%	128 24.7%	2 0.4%	519 100.0%

第 12 表 年齢区分別傷病程度

傷病程度 年齢区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
新生児						
乳幼児				4 100.0%		4 0.7%
少年			1 16.7%	5 83.3%		6 1.2%
成人	2 1.8%	18 15.8%	53 46.5%	39 34.2%	2 1.8%	114 22.0%
高齢者	17 4.3%	84 21.3%	213 53.9%	80 20.3%	1 0.3%	395 76.1%
計	19 3.7%	102 19.7%	267 51.3%	128 24.7%	3 0.6%	519 100.0%

第 13 表 死亡による不搬送

事故種別	急病		自損		一般負傷		その他		計	
死亡	7件	7人	3件	3人	1件	1人	0件	0人	11件	11人

※搬送拒否、途中帰署等を含めた不搬送件数の総数は 29 件となっている。

5. 急病に係る疾病分類別搬送人員の状況

年齢区分別傷病程度別にみると、中等症以上の高齢者は75.9%（死亡7.8%、重症15.2%、中等症52.9%）と、成人の中等症以上61.4%（重症11.4%、中等症50.0%）の約1.2倍となっている。また、疾病分類別傷病程度別にみると、死亡の11人が心疾患に因るものである。（第14表、第15表参照）

第14表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員 (238人)

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児						
乳幼児				3 100.0%		3 1.3%
少 年						
成 人		5 11.4%	22 50.0%	16 36.3%	1 2.3%	44 18.5%
高齢者	15 7.8%	29 15.2%	101 52.9%	46 24.1%		191 80.2%
計	15 6.3%	34 14.3%	123 51.7%	65 27.3%	1 0.4%	238 100.0%

第15表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員 (238人)

傷病程度 疾病分類	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
循環系		10 32.3%	15 48.4%	6 19.3%		31 13.0%
	11 32.4%	7 20.6%	13 38.2%	3 8.8%		34 14.3%
消化系	1 3.6%	4 14.3%	22 78.5%	1 3.6%		28 11.8%
呼吸系	2 6.3%	1 3.1%	26 81.2%	3 9.4%		32 13.4%
精神系				1 100.0%		1 0.4%
感覚系						
泌尿系			4 50.0%	4 50.0%		8 3.4%
新生物	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%			6 2.5%
その他 不明確		9 9.2%	41 41.8%	47 48.0%	1 1.0%	98 41.2%
計	15 6.3%	34 14.3%	123 51.7%	65 27.3%	1 0.4%	238 100.0%

第 16 表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員 (238 人)

疾病分類		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患				5 16.1%	26 83.9%	31 13.0%
	心疾患				3 8.8%	31 91.2%	34 14.3%
消化系					8 28.6%	20 71.4%	28 11.8%
呼吸系			1 3.1%		1 3.1%	30 93.8%	32 13.4%
精神系					1 100.0%		1 0.4%
感覚系							
泌尿系					2 25.0%	6 75.0%	8 3.4%
新生物						6 100.0%	6 2.5%
その他不明確			2 2.0%		24 24.5%	72 73.5%	98 41.2%
計			3 1.3%		44 18.5%	191 80.2%	238 100.0%

6. 現場到着所要時間別出場件数の状況

救急出場件数 548 件のうち、転院搬送 149 件、出場途上辞退 4 件を除く 395 件について現場到着所要時間をみると、現場到着に 10 分以上要したものが 246 件 (62.3%) であった。また、現場到着平均所要時間は 14.9 分 (前年 13.7 分) となっている。(第 17 表参照)

第 17 表 現場到着所要時間別・事故種別出場件数 (395 人)

事故種別	現場到着所要時間					計	現場到着平均時間
	3分未満	3分～5分未満	5分～10分未満	10分～20分未満	20分以上		
急病	2	4	84	101	58	249	14.4
交通			12	10	5	27	15.5
一般負傷		5	31	39	24	99	16.1
その他	2		9	5	4	20	14.7
計	4	9	136	155	91	395	14.9
転院	18	47	72	6	6	149	5.2
総計	22	56	208	161	97	544	12.2

※全国の統計 (令和 3 年版消防白書) では、現場到着所要時間は平均 8.9 分となっている。

7. 収容所要時間別搬送人員の状況

搬送人員 519 人のうち、転院搬送 149 人を除く病院収容した 370 人についての収容所要時間別（覚知～医療機関などに引き継ぐまでに要した時間）の状況は、30 分以上～60 分未満が最も多く 171 人（46.2%）であった。30 分以上が 302 人（81.6%）及び収容平均所要時間が 53.5 分（前年 54.8 分、1.3 分減）で長時間の救急活動となる場合が多くなっている。（第 18 表参照）

第 18 表 収容所要時間別・事故種別搬送人員の状況

(370 人)

収容所要時間 事故種別	10分未満	10分～20分未満	20分～30分未満	30分～60分未満	60分～120分未満	120分以上	計	収容平均所要時間
急病		10	32	113	82	1	238	52.7
交通			5	11	10	1	27	54.1
一般負傷		5	11	42	30	3	91	55.3
その他		3	2	5	3	1	14	54.9
計		18	50	171	125	6	370	53.5
転院	2	2	2	119	24		149	51.3
総計	2	20	52	290	149	6	519	52.9

※全国の統計（令和 3 年版消防白書）では、収容所要時間は平均 40.6 分となっている。

第 19 表 ドクターヘリ要請状況

年	平成29年	30年	令和元年	2年	3年
件数	17	20	13	12	11

第 20 表 ドクターカー要請状況

年	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
件数	3	1	4	7	1	6	4	3	1	1	0	0

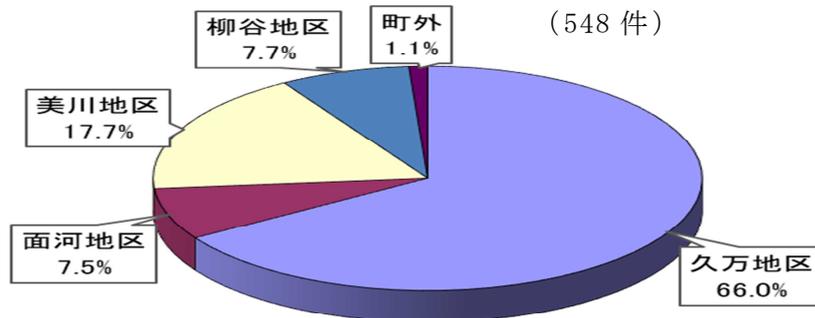
第 21 表 救急隊員の行った応急処置状況

事 故 種 別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員	238	27	91	163	519
止 血	1	2	14	4	21
固 定		9	17	9	35
人 工 呼 吸	7	1	1	2	11
酸 素 吸 入	64	1	6	39	110
保 温	22	4	18	12	56
被 覆	3	5	28	4	40
胸 骨 圧 迫	6	1	1		8
心 肺 蘇 生	11		1	2	14
* うち自動式心マッサージ器	4				4
* 在宅療法継続	2				2
* ショックパンツ					
* 血 圧 測 定	220	23	91	158	492
* 心音呼吸音聴取	33	4	3	10	50
* 血中酸素飽和度測定	225	24	91	159	499
* 心電図測定等	115		20	67	202
気 道 確 保	21	2	1	4	28
* うち経鼻エアウェイ		1		1	2
* うち喉頭鏡・鉗子等	1				1
◎* うちラリングアルマスク等	6				6
◎* うち気管挿管	1				1
* 除 細 動					
◎* 静 脈 路 確 保 CPA前					
◎* 静 脈 路 確 保 CPA後					
◎* 薬 剤 投 与 アドレナリン					
◎* 薬 剤 投 与 ブドウ糖					
◎* 血 糖 測 定					
そ の 他	237	26	89	165	517
合 計	979	103	381	636	2,099
* 拡大された応急処置等	607	52	205	395	1,259
◎うち特定7項目	7				7

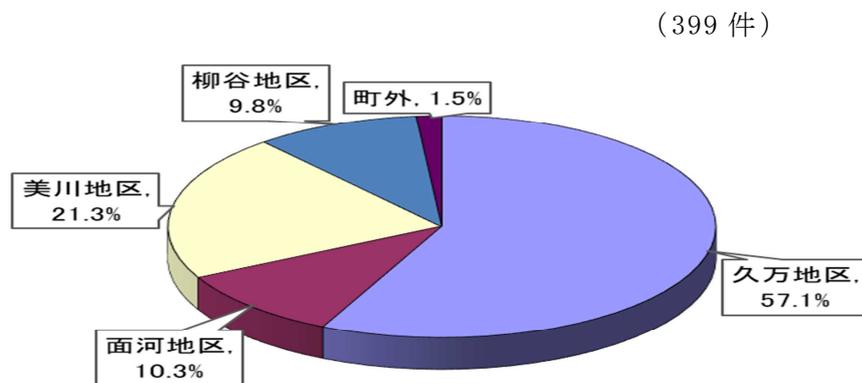
第 22 表 地区別救急出場件数の増減

地区 件数	久万高原町					町外	計
	全 体	久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区		
令和3年	548	362	41	97	42	6	548
	100.0%	66.0%	7.5%	17.7%	7.7%	1.1%	100.0%
うち転院を除く	399	228	41	85	39	6	399
	100.0%	57.1%	10.3%	21.3%	9.8%	1.5%	100.0%
令和2年	544	373	45	80	44	2	544
増 減	4	▲ 11	▲ 4	17	▲ 2	4	4
増 減 率	0.7%	▲2.9%	▲8.9%	21.3%	▲4.5%	200.0%	0.7%

第 3 図 地区別救急出場件数



第 4 図 転院を除く地区別救急出場件数



第 23 表 普通救命講習 I 実施状況

(令和 3 年中)

番号	受講日	講習時間	受講団体名	受講者数	修了証 交付者数	派遣人員
1	7月 28日	3:00	町内林業従事者	10	10	2
合計		3:00	1 団体	10	10	2

※は新規講習と再講習の実施団体（再講習の人数は含まれていない）

第 24 表 救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	その他
上級救命講習	568	36	394	56	15	23	44
普通救命講習	6,271	363	462	274	952	3,287	933
総修了者数	6,839	399	856	330	967	3,310	977

8. 応急手当・口頭指導の実施状況

(1) 応急手当の実施状況

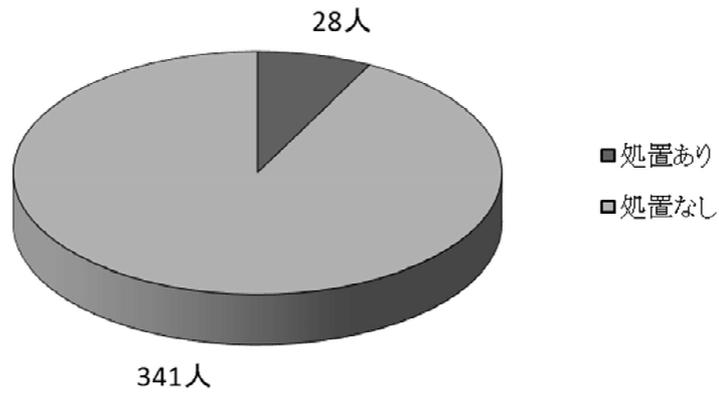
令和 3 年中の搬送人員 519 人のうち、転院搬送及びその他（中継搬送）の 150 人を除く 369 人について、救急隊到着以前の応急手当の実施についてみると 28 人（7.6%）が応急手当を受けており、令和 2 年（356 人中 22 人・6.2%）と比較して増加している。また、事故種別ごとの応急手当の実施についてみると、一般負傷において 13 人（14.3%）と最も多くなっており、次いで急病 10 人、交通事故 3 人となっている。

応急手当の内容を見ると、止血 11 件、胸骨圧迫 10 件、被覆 4 件、移動 3 件、心肺蘇生法 1、固定 1 件、AED 使用 1 件、となっており、応急手当の実施者については家族が 26.7%を占めている。

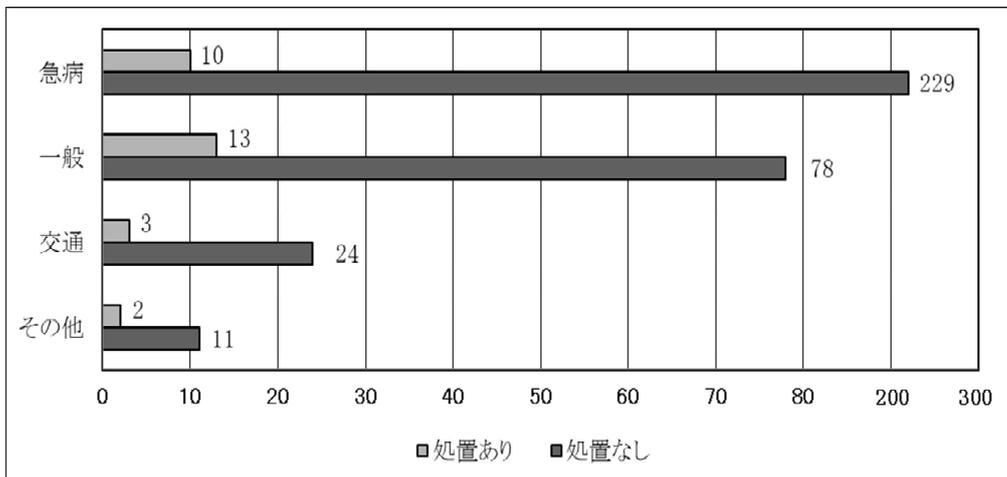
(第 5・6・7・8 図参照)

第5図 応急手当実施状況

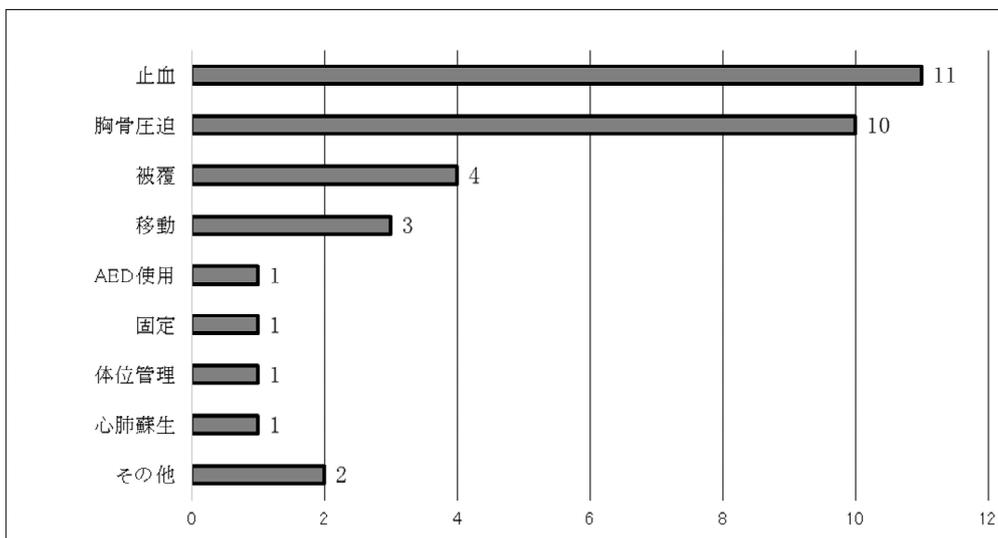
(369人)



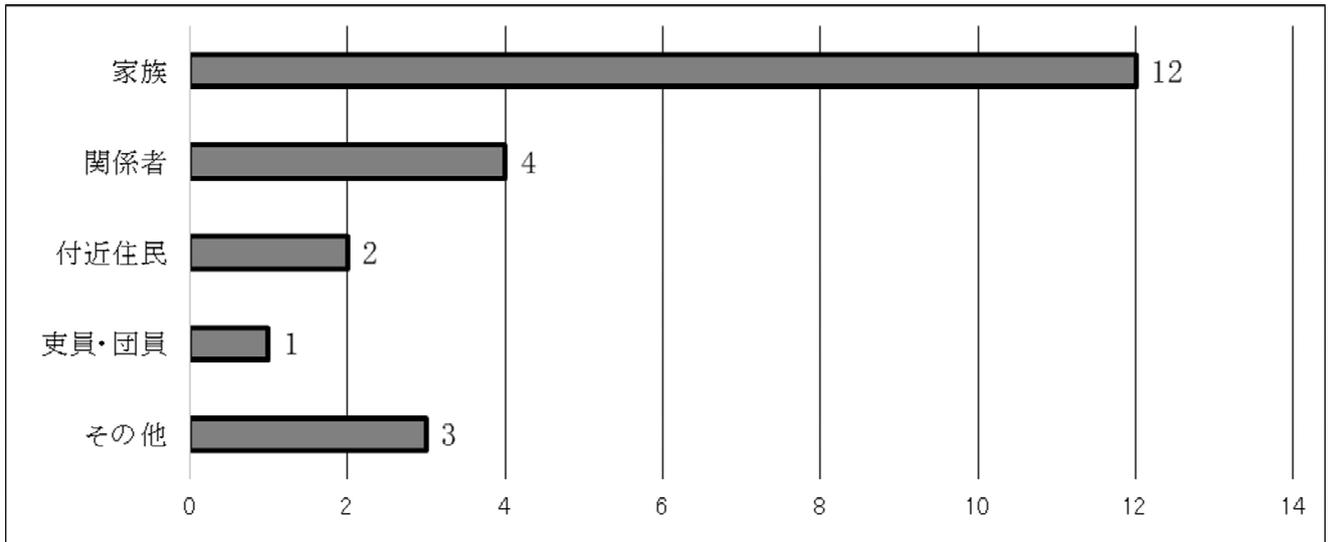
第6図 事故種別別応急手当実施状況



第7図 応急手当内容



第 8 図 応急手当実施者



(2) 救急通報受信中における通報者等に対する応急手当の指導（以下、口頭指導という）状況について

令和 3 年中の搬送人員 519 人のうち、転院搬送及びその他（中継搬送）の 150 人を除く 369 人について、口頭指導を実施した件数は 23 件、指導合計数は 23 件であった。また、口頭指導による応急手当の実施は 21 件（91.3%）、未実施は 2 件（8.7%）となっている。

（第 25 表参照）

第 25 表 令和 3 年中の口頭指導状況

口 頭 指 導 の 項 目	指導件数
止血・被覆などに関するもの	12件
胸骨圧迫・人工呼吸などに関するもの	10件
AEDの準備などに関するもの	2件
その他（異物除去・保温・体位管理）	2件
合 計	26件

※指導回数には複数項目の場合が存在するため回数と件数は一致しない。

第 26 表 久万高原町内 AED 設置箇所状況 (総設置箇所 67 箇所)

久万地区		25	うつのみや内科	5	面河診療所
1	久万高原町役場(本庁)【寄贈】	26	高橋歯科医院	6	消防団多機能車両(里成)
2	久万B&G海洋センター	27	わたなべ歯科医院	7	面河山岳博物館
3	養護老人ホーム「ささゆり荘」	28	ICランド土居	美川地区	
4	老人保健施設「あけぼの」	29	道の駅「天空の郷さんさん」	1	久万高原町役場(美川支所)
5	久万高原町産業文化会館	30	道の駅防災センター	2	美川小学校
6	久万高原町教育委員会	31	久万カントリークラブ	3	仕七川小学校
7	久万小学校	32	高原ゴルフクラブ	4	美川中学校
8	直瀬小学校	33	入野福祉館	5	岩屋寺【私設置】
9	明神小学校	34	農業公園アグリピア	6	仕七川駐在所
10	父二峰小学校	35	大宝寺【私設置】	7	美川中学校「若竹寮」
11	畑野川小学校	36	久保建設【私設置】	8	みかわクリニック
12	久万中学校	37	石丸建設【私設置】	9	小椋商店
13	上浮穴高校【県設置】	38	くま安心館【寄贈】	柳谷地区	
14	久万高原町立病院	39	グループホーム「サマリア」【寄贈】	1	久万高原町役場(柳谷支所)
15	父二峰診療所	40	グループホーム「メサイア」【寄贈】	2	柳谷小学校
16	国民宿舎「古岩屋荘」	41	まちなか交流館	3	四国電力面河発電所
17	久万スキーランド【私設置】	42	久万保健センター	4	消防団多機能車両(落出)
18	ふるさと旅行村【寄贈】	43	県中予地方局	5	中津公民館
19	畑野川歯科【県歯科医師会設置】	44	県林業センター	6	古味集会所
20	久万高原警察署	面河地区		7	吉村内科
21	四国電力久万営業所	1	面河小学校		
22	久万こども園	2	おもご高齢者生活支援ハウス		
23	伊予銀行久万支店【私設置】	3	若山集会所		
24	松山市農協久万支所【私設置】	4	相ノ峰公民館【私設置】		

救 助 編



危険に立ち向かうオレンジの精鋭

救助活動体制の現状

(1) 救助活動状況の推移

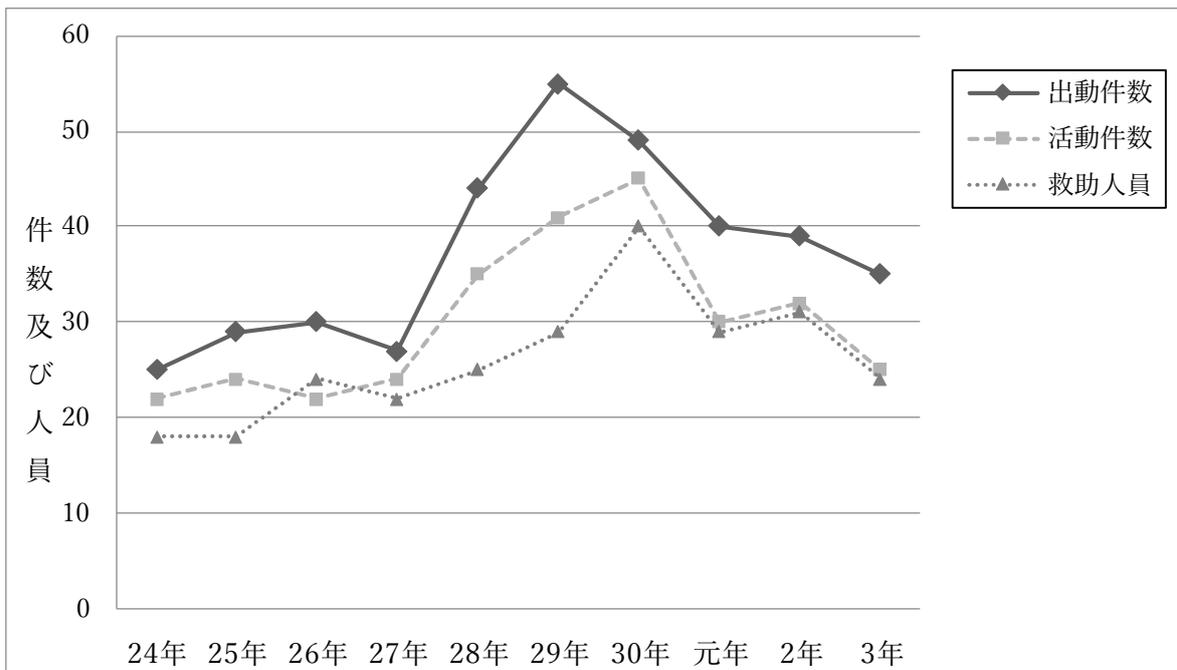
令和3年における救助出動件数は36件、このうち活動件数は26件、救助人員（救助活動により救助された人員をいう。）は25人となっており、前年よりそれぞれ減少している。

（第1表 第1図参照）

第1表 過去10年間の救助活動状況の推移

区分 年 別	救助出動件数		救助活動件数		救 助 人 員	
	件数	増減率(%)	件数	増減率(%)	人員	増減率(%)
H24年	25	△34.2	22	△21.4	18	△5.3
H25年	29	16.0	24	9.0	18	0.0
H26年	30	3.4	22	△8.3	24	33.3
H27年	27	△10.0	24	9.1	22	△8.3
H28年	44	63.0	35	45.8	25	13.6
H29年	55	25.0	41	17.1	29	16
H30年	49	△8.9	42	2.4	40	37.9
R元年	40	△19.4	30	△28.6	29	△27.0
R2年	39	△2.5	32	6.6	31	6.8
R3年	36	△7.7	26	△18.8	25	△19.4

第1図 救助出動状況と救助人員



(2) 事故種別状況

事故種別出動件数は、救急応援が10件（27.8%）、次いで山岳事故が8件（22.2%）となっており、全体の半数（50.0%）を占めている。山岳事故は過去3年（平成30年5件、令和元年2件、令和2年3件）と比較して増加傾向にある。

（第2表参照）

第2表 事故種別状況

救助出動活動件数 及び救助人員		事故種別		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	建 物 事 故	防 災 ヘ リ 支 援	ヘ ド ク タ ー 支 援	救 急 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計	
		件数	構成比(%)												
出動	件数		3		1			1	5	10	5	8	3	36	
	構成比(%)		8.3%		2.8%			2.8%	13.9%	27.8%	13.9%	22.2%	8.3%	100%	
活動	件数		2		1			1	5	9	3	3	2	26	
	構成比(%)		7.7%		3.8%			3.8%	19.2%	34.6%	11.6%	11.6%	7.7%	100%	
人員	人員数		2		1			1	5	9	2	3	2	25	
	構成比(%)		8.0%		4.0%			4.0%	20.0%	36.0%	8.0%	12.0%	8.0%	100%	
過去10年の合計件数			43		44		10	2	8	57	74	48	69	22	377

（注）火災による出動・活動件数は、建物火災のみを計上。



(3) 事故種別出動人員及び活動人員の状況

事故種別出動人員及び活動人員数は搬送応援が最も多く、次いで山岳事故となっている。

(第3表・第2図参照)

第3表 事故種別出動人員及び活動人員の状況

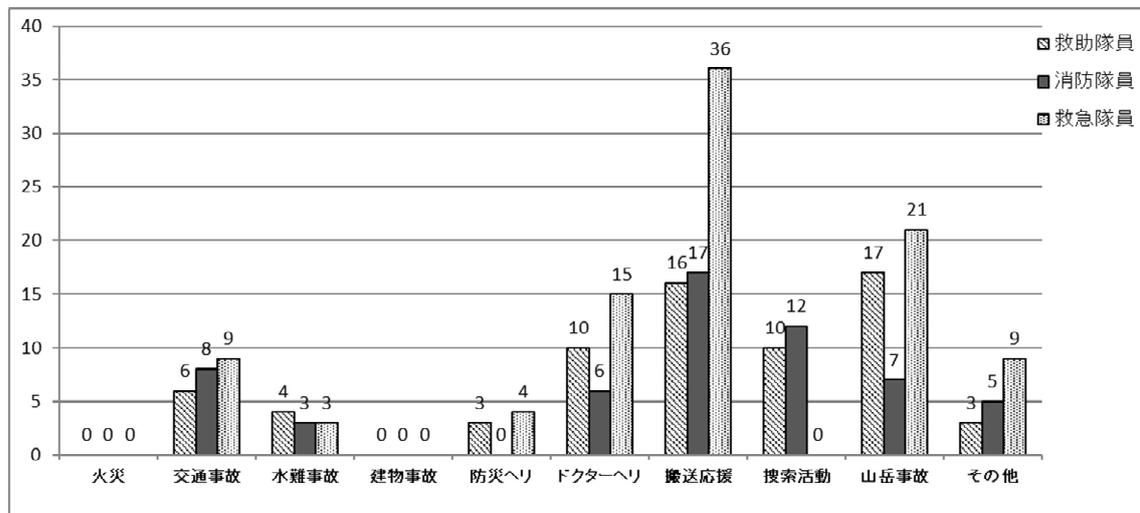
事故種別		火災	交通事故	水難事故	建物事故	支防 災へ 援り	ヘドク リク 支 援	搬送 応 援	捜索 活 動	山岳 事 故	そ の 他	合 計
救助隊員	出動		6	4		3	10	16	10	17	3	69
	活動		6	4		3	10	14	6	7	2	52
消防隊員	出動		8	3			6	17	12	7	5	58
	活動		6	3			6	14	8	1	3	41
救急隊員	出動		9	3		4	15	36		21	9	97
	活動		6	3		4	15	30		6	6	70
合 計	出動		23	10		7	31	69	22	45	17	224
	活動		18	10		7	31	58	14	14	11	163

(注)ア. 各欄上段の「出動」とは、救助活動を行うために出動した全ての人員を、下段の

「活動」とは、救助出動人員のうち実際に救助活動を行った人員を計上。

イ. 火災の出動及び活動人員は、現場に出動した消防・救急・救助隊員数を計上。

第2図 事故種別出動人員



(4) 主な救助活動

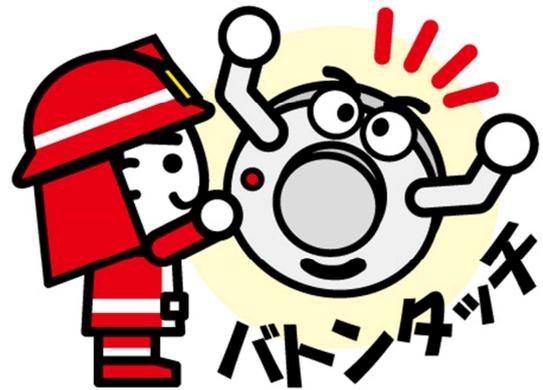
第 4 表 令和 3 年の主な救助活動

番号	種別	発生日	発生場所	出動人員
				救助人員
1	その他の事故	2 月	久万高原町 上黒岩地区	6 人
				1 人
12m 下へ転落した要救助者の引き揚げ救助活動				
2	搬送応援	2 月	久万高原町 父野川地区	10 人
				1 人
林業用の作業道で事故し、動けなくなった要救助者の搬送応援				
3	捜索	5 月	久万高原町 上黒岩地区	3 人
				1 人
病院に入院中の認知症患者が行方不明となったため捜索				
4	山岳事故	6 月	久万高原町 石鎚山	3 人
				1 人
登山中に滑落し動けなくなった要救助者を担架で搬送				
5	ヘリ支援	12 月	久万高原町 東明神地区	6 人
				1 人
現場活動中の救急隊から Dr ヘリの要請を受け、その Dr ヘリ支援				

予 防 編



10年
おつかれさま

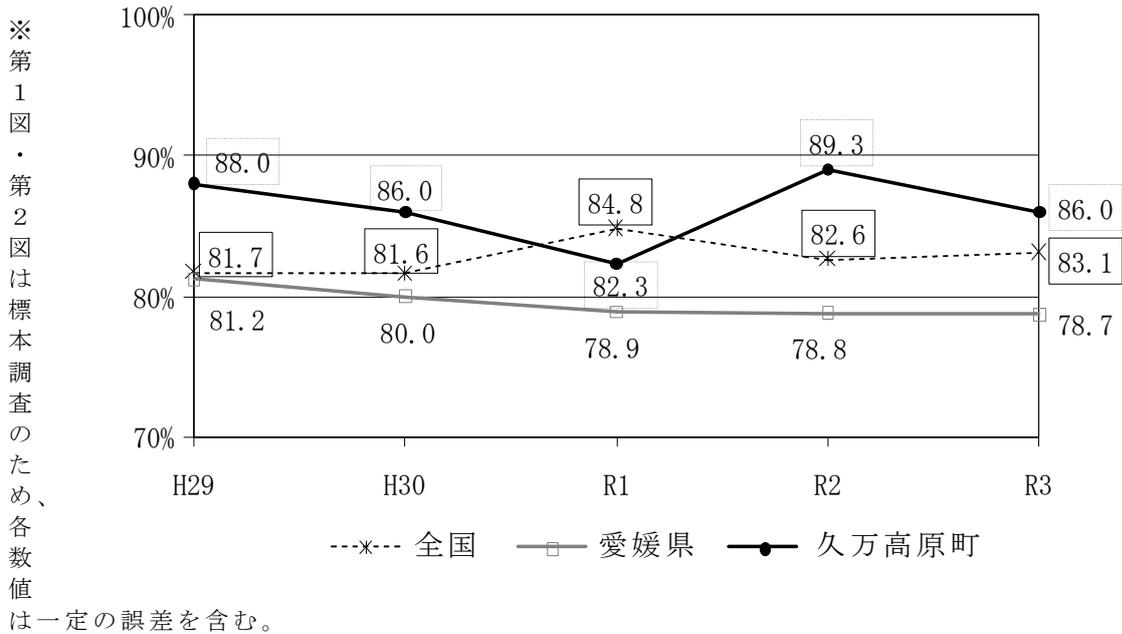


火災予防 私たちにできること！

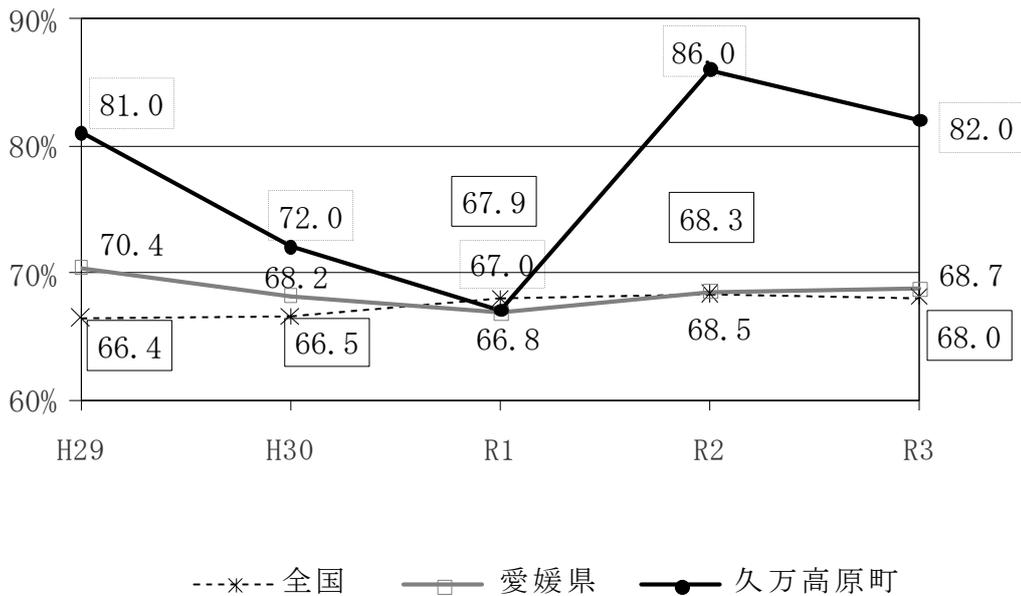
予防行政の現状

1. 住宅防火対策

第1図 住宅用火災警報器設置率の推移



第2図 条例適合率の推移



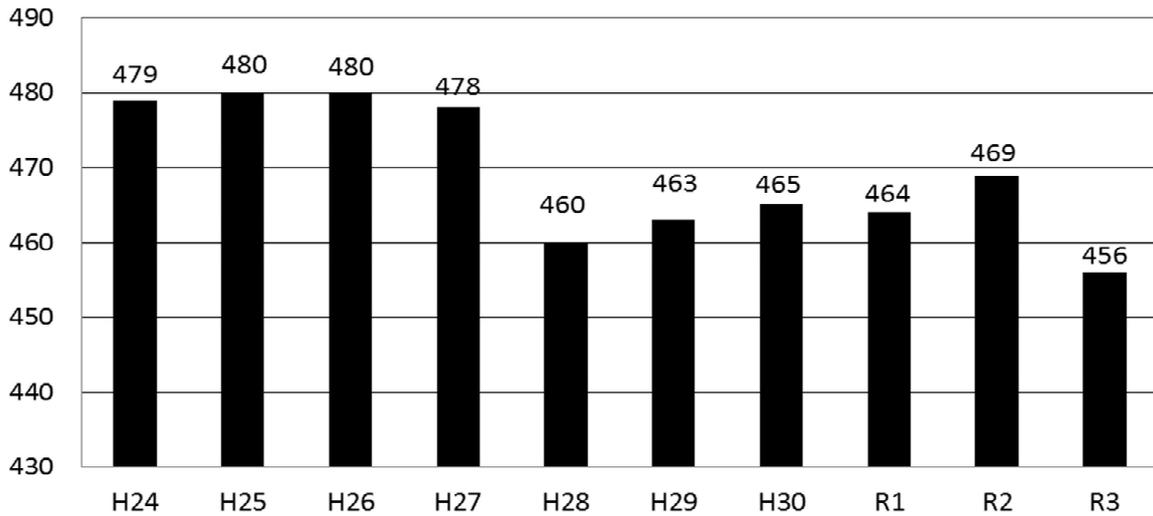
2. 防火対象物

第1表 用途・地区別防火対象物数

		久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			合計			
		R2	R3	増減	R2	R3	増減	R2	R3	増減	R2	R3	増減	R2	R3	増減	
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ロ	公会堂・集会場	19	19	-	6	6	-	10	5	-5	5	5	-	40	35	-5
2	イ	キャバレー・カフェ等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			-			-			-			-	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等			-			-			-			-	-	-	-
3	イ	待合・料亭の類			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	飲食店	4	4	-			-			-			-	4	4	-
4		百貨店・マーケット・その他店舗 展示場	11	10	-1	1	1	-			-			-	12	11	-1
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	11	10	-1	3	3	-	2	2	-	1	1	-	17	16	-1
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	25	25	-	3	3	-	7	7	-	5	5	-	40	40	-
6	イ	病院・診療所又は助産所	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	9	9	-			-			-			-	9	9	-
	ハ	老人サービス施設等	6	6	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	9	9	-
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	4	-			-	2	2	-			-	6	6	-
7		小中高等学校・各種学校等	21	21	-			-	9	9	-	2	2	-	32	32	-
8		図書館・博物館・美術館	6	6	-	1	1	-			-			-	7	7	-
9	イ	蒸気浴場等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	公衆浴場	1	1	-			-			-			-	1	1	-
10		車両停車場			-			-			-			-	-	-	-
11		神社・寺院・教会	6	5	-1			-	1	1	-			-	7	6	-1
12	イ	工場・作業場	35	36	1	2	2	-	8	8	-	1		-1	46	46	-
	ロ	映画スタジオ等			-			-			-			-	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	3	3	-			-	1	1	-			-	4	4	-
	ロ	飛行場の格納庫			-			-			-			-	-	-	-
14		倉庫	39	37	-2	2	2	-	1	2	1	2	2	-	44	43	-1
15		前各項に該当しない事業場	86	83	-3	2	2	-	9	9	-	18	18	-	115	112	-3
16	イ	特定の複合用途対象物	31	29	-2	5	5	-	8	8	-	4	4	-	48	46	-2
	ロ	その他複合用途対象物	11	12	1	1	1	-	3	3	-			-	15	16	1
17		重要文化財・重要美術品	2	2	-			-	3	3	-			-	5	5	-
18		アーケード			-			-			-			-	-	-	-
19		市町村長の指定する山林			-			-			-			-	-	-	-
合		計	337	329	-8	27	27	-	66	62	-4	39	38	-1	469	456	-13

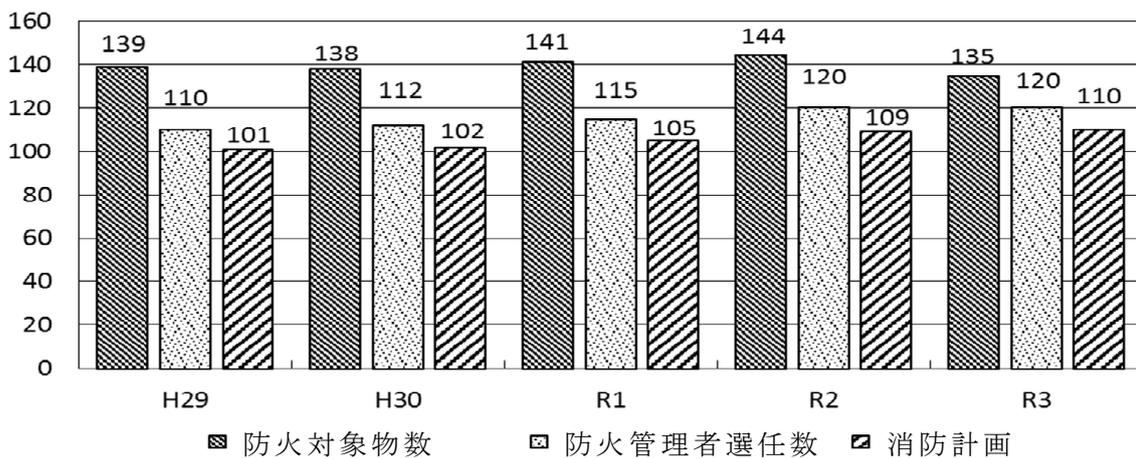
※消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物のうち(1)項から(16)の(3)項までに掲げる防火対象物で延べ面積が150㎡以上のもの及び(17)項から(19)項に掲げる防火対象物が対象

第3図 防火対象物の推移

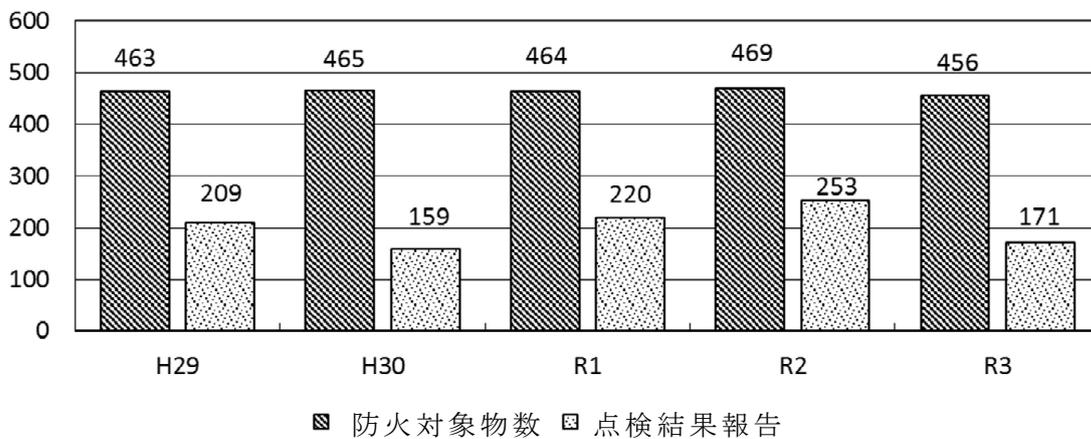


3. 防火管理実施

第4図 防火管理者選任・消防計画作成届出状況



第5図 消防用設備点検結果報告状況



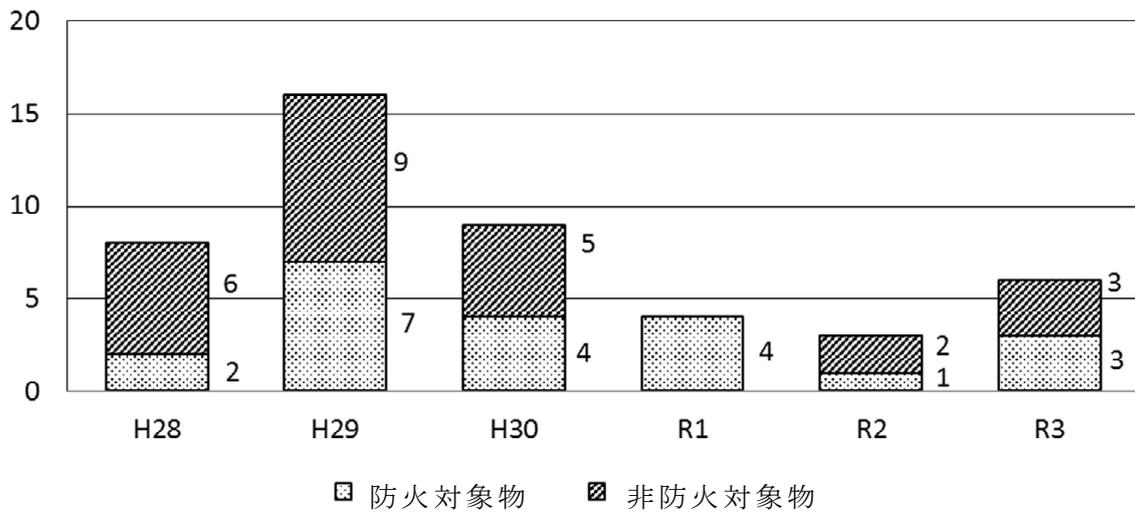
4. 立入検査実施

第2表 立入検査結果

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
対象物数	460	463	465	464	469	456
立入検査数	139	172	169	188	171	141
実施率	30.2%	37.1%	36.3%	40.5%	36.5%	30.9%

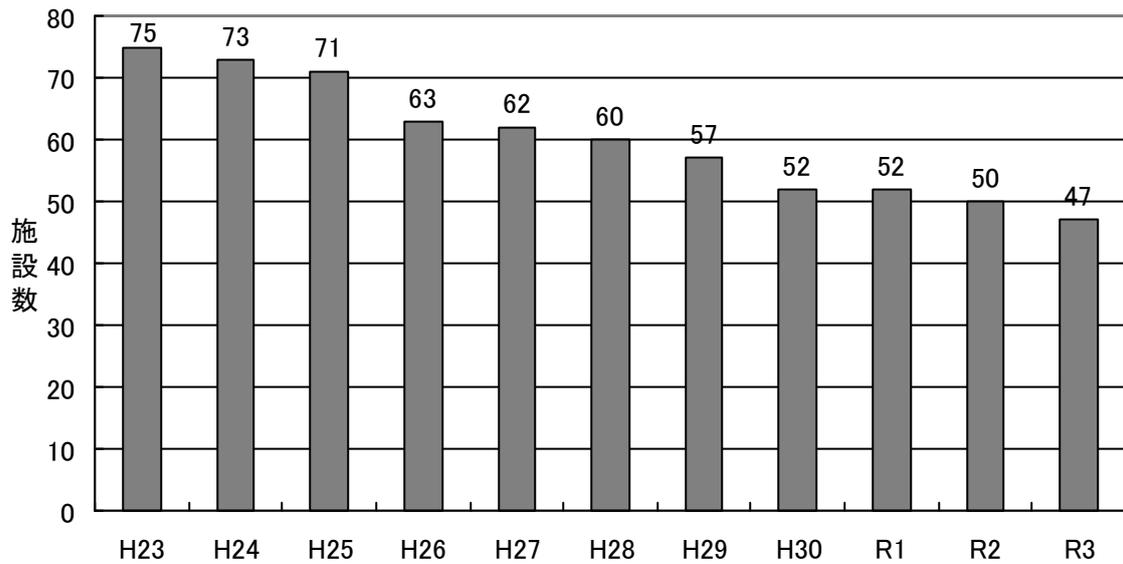
5. 消防同意

第6図 消防同意処理状況



6. 危険物

第7図 危険物施設数の推移



第3表 許可区分別・地区別危険物施設数

地区別		久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区	合計
貯蔵所	屋内	2 (-1)		(-1)		2 (-2)
	屋外タンク	3		1		4
	屋内タンク	1				1
	地下タンク	7			1	8
	簡易タンク	2				2
	移動タンク	8 (+1)		2		10 (+1)
	屋外					0
取扱所	給油 [自家用]	10 (-1) [3]	1 [1]	4 (-1) [1]	1 [0]	16 (-2) [5]
	一般	3		1		4
合計		36 (-1)	1	8 (-2)	2	47 (-3)

() 内は前年比

高齢者の防火対策

第1表 久万高原町における高齢化率の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
久万高原町 総人口(人)	9,177	8,944	8,671	8,495	8,299	8,034	7,830
久万高原町 高齢者数(人)	4,179	4,123	4,046	3,994	3,911	3,865	3,811
久万高原町 高齢化率(%)	45.54	46.10	46.66	47.02	47.53	48.11	48.67
愛媛県 総人口(人)	1,420,283	1,410,463	1,399,453	1,387,133	1,374,887	1,362,859	1,350,801
愛媛県 高齢者数(人)	419,554	428,008	434,035	438,049	440,710	442,170	443,576
愛媛県 高齢化率(%)	29.54	30.35	31.01	31.58	32.05	32.44	32.84

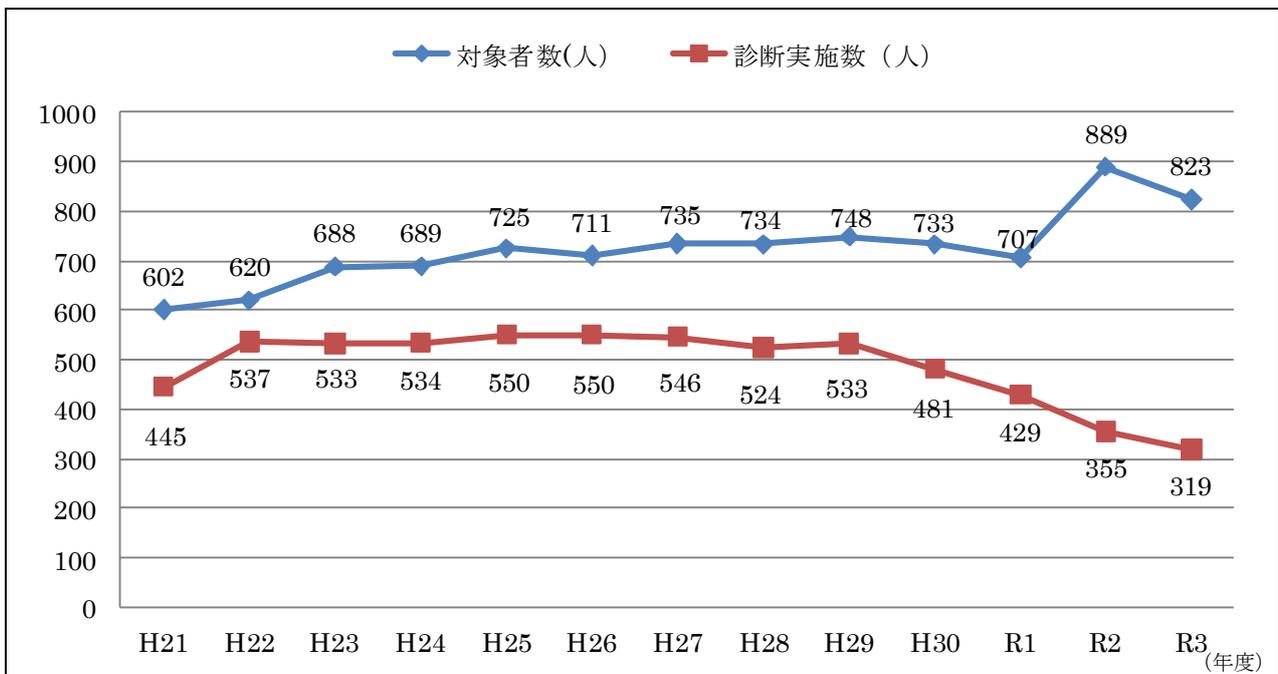
※愛媛県介護長寿課発行「高齢者人口等統計表」より抜粋

※高齢者の年齢は65歳以上

防災診断

1. ひとり暮らしのお年寄り宅防災診断

第1図 対象者数及び診断実施数の推移



※対象者は65歳以上のひとり暮らしのお年寄り

※R2年度以降の対象者数増加は抽出方法の変更等によるもの

第2表 地区別訪問状況及び建物の状況

久万地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和3年度	146	304	450	162	36.0	157	5	120	40
令和2年度	176	380	513	192	37.4	186	6	154	35
令和元年度	109	254	363	207	57.0	198	6	166	35
平成30年度	115	264	379	237	62.5	228	7	197	33
平成29年度	121	267	388	266	68.6	257	9	212	48

面河地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和3年度	22	56	78	37	47.4	37	0	35	2
令和2年度	22	54	74	29	39.2	29	0	29	0
令和元年度	16	53	69	45	65.2	42	3	41	4
平成30年度	17	51	68	49	72.1	46	2	43	5
平成29年度	17	52	69	45	65.2	45	0	43	2

美川地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和3年度	72	135	207	85	41.1	85	0	71	14
令和2年度	74	133	204	99	48.5	97	2	83	16
令和元年度	61	118	179	114	63.7	109	4	99	14
平成30年度	61	127	188	138	73.4	133	5	120	18
平成29年度	64	127	191	145	75.9	141	4	127	17

柳谷地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和3年度	34	55	89	35	39.3	35	0	32	2
令和2年度	40	64	98	35	35.7	33	2	30	4
令和元年度	31	65	96	63	65.6	61	2	55	7
平成30年度	29	69	98	57	58.2	56	1	51	5
平成29年度	28	72	100	77	77.0	75	2	71	6

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第3表 非常時の通報手段及び消火器

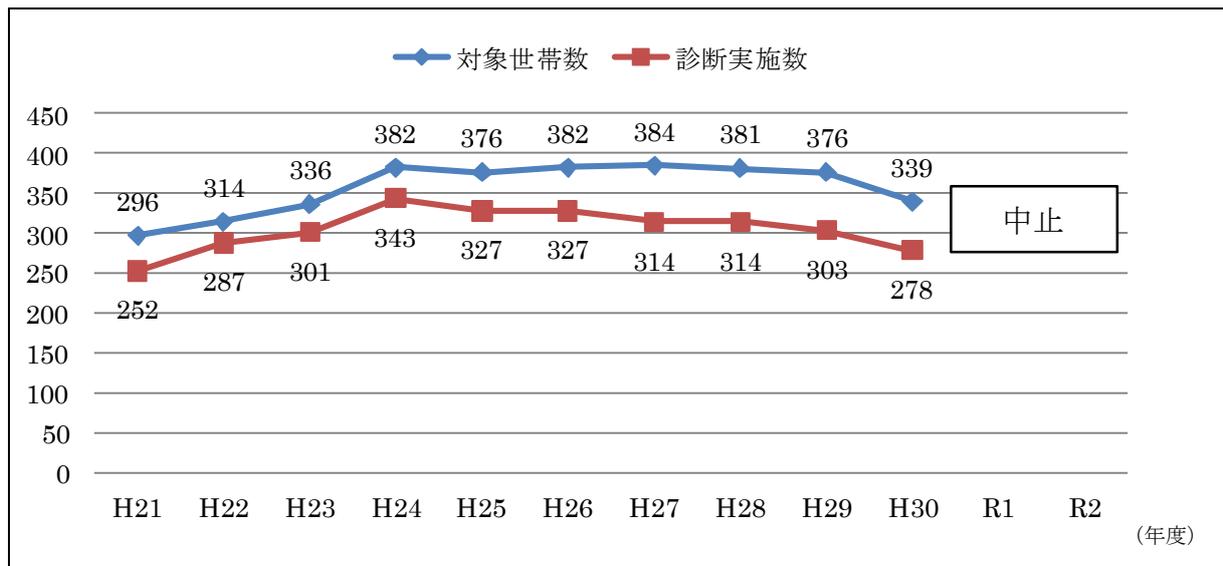
	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり (設置率)	不備あり (割合)
久万地区	154	113	15	7	1	100 (61.7%)	41 (41.0%)
面河地区	35	23	1	2	2	27 (73.0%)	19 (70.4%)
美川地区	84	57	0	2	1	53 (62.4%)	34 (64.2%)
柳谷地区	34	19	5	0	0	27 (77.1%)	17 (63.0%)
久万高原町	307	212	21	11	4	207 (64.9%)	111 (53.6%)

第4表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	12	17	16	4	9	6	23	3
面河地区	4	12	8	0	8	6	10	0
美川地区	32	12	36	1	7	6	38	3
柳谷地区	9	9	12	0	6	7	11	0
久万高原町	57	50	72	5	30	25	82	6

2. 後期高齢者夫婦世帯等防災診断

第2図 対象世帯数及び診断実施数の推移



※対象は75歳以上の夫婦世帯

※R1、2年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

消防現況 令和3年版

発行日 令和4年3月1日

発行 久万高原町消防本部

〒791-1207

愛媛県上浮穴郡久万高原町下野尻甲33番地

TEL (0892) 21-2411 FAX (0892) 21-2656

久万高原町
イメージキャラクター

